

2013年度助成事業「ふらっと相談室」実施報告書

特定非営利活動法人緩和ケアサポートグループ

はじめに

東久留米市内には100床以下の民間病院が2ヶ所あり、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、介護サービス事業者等と連携して在宅療養生活を支援している。しかし各機関が在宅ホスピスケアに積極的とは限らず、在宅ホスピスケアを実践している東久留米白十字訪問看護ステーション（以下ステーション）が相談対応にあたることが多い。高齢化やがん患者の増加に伴い、在宅ホスピスケア実現に関わる問題も増加、複雑化している。当NPO法人はステーションと協働で“ふらっとカフェ@東久留米”を開催して多様な相談に対応し、専門職からの助言や情報提供による療養の方向づけなど、活動の実績を重ねてきた。この活動を基盤として、ステーション内のスペースに相談室を開設し、定期的に相談支援活動を行うことを構想した。

2013年度日本財団助成事業として「地域ホスピス相談室の整備／訪問看護ステーション改修」を実施できた。これにより、専門的に相談に従事する人員が在室し、東久留米市及び近隣地区の住民に対して、在宅ホスピスケアに関する情報提供、施設から在宅への移行の相談支援、在宅療養中の患者・家族の困りごとの相談などにあたることが可能となった。

2013年12月半ばに開室して以来、利用者数は（「ふらっとカフェ」開催日を除くと）未だ少数であるが、多様な形で利用されている。今後も地域の多機関との連携を密にしながらニーズに応え、患者・家族の在宅療養への理解が深まり、サポートのある安心感をもって住み慣れた地域で生活していくことが可能になるように相談活動を継続していきたい。

相談室の利用状況

・案内状況

2013年12月6日に「ふらっと相談室」と銘打ってオープンした。この時点では、ふらっとカフェ参加者、ステーション関係者、当NPO会員・関係者へ案内状を送付していた。

2014年2月10日に相談室案内リーフレット原稿を完成し、そのコピーを東久留米市および近隣地域の医療福祉施設長、事業所長に郵送した。3月24日にリーフレット印刷版が完成し、3月31日に当NPO会員に配布ないし発送をした。

・利用状況

2013年12月：	3回開催	来室者数5名
2014年1月：	6回開催	来室者数25名（内ふらっとカフェ18名）
2014年2月：	9回開催	来室者数29名（内ふらっとカフェ17名）
2014年3月：	11回開催	来室者数13名（内電話相談1名）
2014年4月：	11回開催	来室者数32名（内ふらっとカフェ18名）

・相談例

- * 在宅ホスピスケアを可能にするための相談対応
- * がんサバイバーが表出される不安を傾聴し、それに対応してアドバイス
- * 最近看取りを経験した方の悲嘆および達成感を共有し、グリーフワークを支援する
- * 悲嘆からの回復の意思をもって継続的に来室・活動へ参加する遺族を見守る

活動の成果と課題

相談室の利用者は徐々に増えてきている。ふらっとカフェでは十分に話せなかった思いを相

談室では個別に時間をかけて傾聴、共感できる。このような場の存在は来室者からも歓迎されている。

相談内容は多岐にわたっている。それに対応可能な相談担当者の育成と確保が今後の課題である。具体的には、傾聴の姿勢とコミュニケーション力の学習、相談に適切に対処できる情報の収集、知識の整理等が不可欠と考える。開設初期には専門職が中心となって相談にあたるとしても、地域に根差した恒久的な相談室とするためには、地域のボランティアの参加協力が望まれる。

また、地域の諸機関との連携強化のために、広報上の工夫が課題である。

おわりに

今般の助成により、ステーションと NPO 法人が協働して地域の療養者を支える一拠点を確保できた。以前から継続してきたカフェ活動が基盤となり、協働活動が地域に少しずつ認知されつつあるという感触を得ている。今後も地道に活動を続けていきたい。